山本商運株式会社

平成27年 第3回安全運転•研修会

2015年 5月9日開会場所 唐崎公民館

参加者: 全員

15:00 開催

司会: 代表取締役 藤本•運行管理取得者

議事

年間マネジメント追突禁止・四半期目標 短期目標のバック時 注意の目標 危険予知訓練【KYT】シート

その他

事故報告

☆チャ☆

閉会:16:30

山本商運株式会社

2015年

輸送安全マネジメント計画表

制送女王マインメント計画衣									
課	題	2015 年輸送安全マネジメント取り組み		PDCA					
		我が社は、年間最低6回の会議を全員で行う、		年間取組					
月	間	よって、PDCA サイクルは年4回では	ある	一门打水瓜					
目	標								
1月		無事故表彰 (Pプラン)	第1	年間 目標					
T)1	136	冬季道路の安全走行(安全協会)	4 半期	当社恒久的目標	年				
目	(I)	全体会議にて全員に確認資料添付		である	間				
H	(1)	掲示板にも張り出す (D実施)		無事故無違反					
標	#			のうち本年は	サ				
125	9			追突事故に注意					
2月	,	冬季道路の安全走行(安全協会)	サ						
	1	安全に走行できているか個人個人の	イ		イ				
	Ball	事故歴を見る、(Cチェック)	ク	漫然運転による					
	7	運行管理者講習 (添付)	ル	追突事故を防止					
	MAR	整備管理者選任後講習(添付)		する (P目標)					
	N			追突事故無し	ク				
3月		今期就業規則 36 協定提出	改善	(D実施)					
2 73		冬季道路の安全走行	シス	実行ポスターを					
		明らかな課題の是正 (A改善)	テム	掲示する					
1	1	短期目標(バック注意)決定		(Cチェック)	ル				
		4 半期・PDCDサイクル終了 2015 年							
	V	冬季に再度,取り組							
		毎年このスパイラルを繰り返す							
		3月14日 (土) 安全会議		短期目標にバック	で				
4月	(2)	季節的な問題を考慮	第2	注意とは車両全体	啓				
生月	(2)	バック時注意 (P目標バック注意)	四半期	に対しての注意を	発				
	サ	全体会議で議決 (Dバック注意実行)		喚起する					
	1	年間目標及び短期目標ポスター掲示							
	ク	問題喚起する							
	ル								

5月②サ	バック時注意されているか? (D実行) 他社の研修会参加 議事録添付 (Cチェック) 安全協会により講習指導うける		年間目標 当社恒久的目標 である	年
1	議事録添付		無事故無違反	間
6月 クル	バック事故防止 (A改善) 安全会議 議事録添付 事故件数 改善	改善	漫然運転による 追突事故に注意	サ
	7毎年このスパイラルを繰り返す 		下半期(D実施)	イ
7月 ③ サ イ	眠気対策 (P目標) 原因を把握しているか (D実行) 前年度引き継ぐ (資料)	第3四半期	(Cチェック)	クル
8月 クル	眠気対策をしたか (チェック) 事故はあったか?	改善		で啓発ス
9月	どのように改善するか (改善) 毎年このスパイラルを繰り返す			パイラ
10月@サ	交差点での事故注意(P目標) 交差点での事故状況の説明(D実行) スローガン掲示	第4四半期		ルしてゆ
11 月イクル	交差点での事故回避は出来たか? (Cチェック) 概要・原因・対策(A改善) このサイクルスパイラルを繰り返す	改善	改善 年間改善 サイクル 次年度に繰り	<
12月	ア恒例、年末特別警戒 年間無事故計画の確認及び分析、改善を 次年度へスパイルするこのスパイラル を繰り返す		越し	

人 〈車〉 道路

5月の安全運転のポイント

平成27年5月号

運転している人なら運転中に「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたこと(ヒヤリ・ハット体験)が何度 かあると思いますが、なかでも多いのが前車に追突しそうになった経験ではないでしょうか。 そこで追突事故を起こさないためのポイントをまとめてみました。



追突事故はこのようなとき起こる

平成24年における全国の類型別交通事故発生件数をみると、追突事故が34.8%で最も多く、全体の3分の1を占めており、次いで出会い頭事故、人対車両事故の順となっています(図1)。

追突事故のパターンには、さまざまなものがありますが、 比較的よく発生する追突事故パターンをまとめてみると、 次のようになります。

●交差点を通過するとき

- ・黄信号にさしかかった前車が停止して追突(図2①)
- ・対向右折車のため前車が停止して追突 (図3②)
- ・交差点を右折した前車が対向車のため停止して追突 (図3③)
- ・交差点を直進した前車が横断歩行者等のため停止して 追突(図4④)
- ・ 交差点を左折した前車が横断歩行者等のため停止して 追突 (図 4 ⑤)
- ・交差点を右左折したところ、右左折先の駐車車両に 追突(図4⑥)
- ・信号が青に変わり発進したところ、まだ発進してい なかった前車に追突

●単路を走行しているとき

- ・前車のタクシーが客を乗せるために急停止して追突
- ・トンネル入口で急減速した前車に追突
- ・道路外から自車の前方に進入してきた前車に追突

●高速道路を走行しているとき

- ・ETCの入口ゲートで急停止した前車に追突
- 見通しの悪いカーブの先の渋滞車両に追突
- ・渋滞に巻き込まれ、ノロノロ運転で漫然運転となり 追突

●その他の状況

- 雨や雪でスリップして追突
- ・ 夜間運転で前車との車間距離が詰まって追突
 - ・早朝や長距離運転で居眠り運転となり追突

図 1 事故類型別交通事故発生件数の割合(平成24年) (平成24年)を通統計・交通事故総合分析センター)

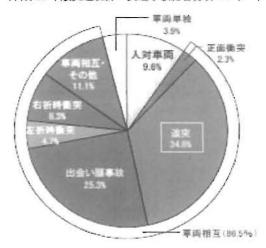


図 2

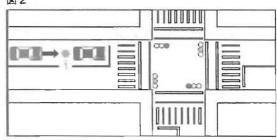


図3

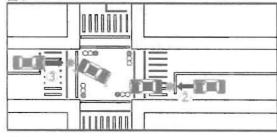
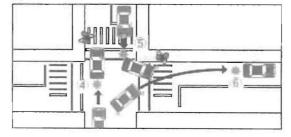


図 4





追突事故はこうして防ごう

十分な車間距離をとる

前車が急停止しても、十分な車間距離をとっていれば追突を防ぐことができます。車間距離の目安としては、高速道路の場合、時速の数字を距離に置き換えた数値(時速80kmであれば80m)、一般道路では時速の数字から15を引いた数値(時速60kmであれば「60-15」で45m)と考えるとよいでしょう。また、前車が通過した地点を自車が通過するまで2~3秒の間隔をとる「車間時間」を目安にする方法もあります。

わき見、漫然運転をしない

車間距離が十分であってもわき見は追突の危険を高めます。運転中は決してわき見をしないようにしましょう。また、低速で前車に追走しているときなどには、漫然運転になってしまい、前車の停止に気づくのが遅れて追突することもあります。低速走行でも油断しないように注意しましょう。

「だろう運転」をしない

前方の信号が黄色に変わったとき、「前車は停止せずに 交差点を通過するだろう」とか、単路の走行時に「前車が 急に減速したり停止することはないだろう」といった自分 に都合のよい「だろう運転」はせず、常に「前車は減速や 停止をするかもしれない」と考えて運転しましょう。

前車の先の状況にも気を配る

対向右折車や横断歩行者のため、前車が急停止すること もあります。前車だけでなく、その先の状況にも気を配り、 前車の停止を早めに予測しましょう。

前車の発進を確認して発進する

交差点での発進時に、信号だけを確認して発進したり、 隣の車線の車が発進したのでそれにつられて発進すると、 まだ、発進していない前車に追突することがあります。発 進時には、必ず前車が発進したかどうかを確認しましょう。







路面や心身状態に注意する

雨で濡れた路面など停止距離が伸びる状況では、いつも以上に車間距離をとり、スピードを抑えた運転をしましょう。また、疲労や寝不足で集中力が低下しやすい長距離運転では、こまめに休憩をとるようにしましょう。

<人> 車 道路

5月の安全運転のポイント 平成27年5月号

駐車するときや方向転換をするときなど、運転時にはバックしなければならないことがよくあります。 車の後方は運転席から見えない死角も多く、安全確認も不十分になりがちです。そのため駐車車両や工 作物などと接触したり、状況によっては後方の歩行者に気づかず衝突するといった事故も発生します。 そこで安全にバックするためのポイントをまとめてみました。

乗り込む前に車の後方を確認する

駐車していた車に乗り込んでバックするときは、車に乗り込む前に車の後方を確認しましょう。

特に、幼稚園や学校、公園や病院などがある 場所の付近では、車の後方に子どもが隠れてい るおそれがありますから、乗り込む前に必ず後 方の確認をしておきましょう。



ひと呼吸おいて、歩く速度でパックする

急なバックは大変危険です。バックギアに入れてからすぐにバックを開始するのではなく、 ひと呼吸おいてからバックしましょう。

また、バックするときは歩くくらいの速度で 徐々に進行しましょう。



ミラーだけに頼らず自分の目で確認する

ミラーでは十分な後方の確認はできませんから、 ミラーだけに頼るのは危険です。必ず振り向いて 自分の目で後方の確認をするようにしましょう。

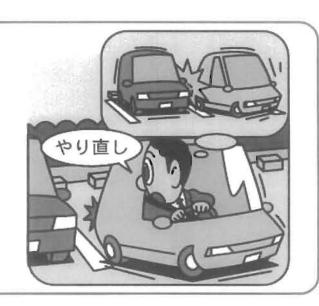
また、バックするときには、窓を開けて周囲の 音を聞くようにしましょう。それによって接近し てくる車や歩行者を早めに察知することができま す。



無理なバックはしない

駐車車両の間にバックして駐車するときなどに、このままバックすると接触するかもしれないと感じたときは、決して無理をせずバックを中止して、もう一度やり直しましょう。特に右ハンドル車は、左側の駐車車両との側方間隔が直接自分の目では確認できず、接触する危険性が高まりますから、危ないと感じたときはいったん停止し、下車して状況を確認するくらいの慎重さが必要です。

なお、曲がりながらバックする場合、車の前輪は後輪よりも外側にふくらみますから、その点も十分考慮して側方の駐車車両との間隔に注意を払いましょう。



同乗者がいるときは誘導してもらう

後方には死角が多いので、同乗者がいるときには誘導してもらうのがよいでしょう。ただし、誘導してもらう場合でも、それに頼り切るのではなく、自分の目で後方を確認することを忘れないようにしましょう。

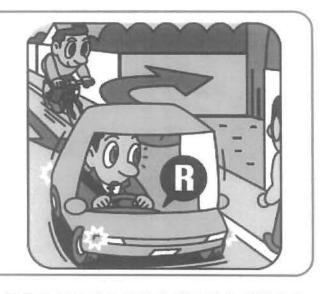
また、バックしてくる車と接触する危険を回避する ため、誘導する人には車の進行方向から少し外れた位 置に立ってもらうようにしましょう。



方向転換でバックするときも基本を忘れない

道を間違えて引き返すような場合、やむを得ず方向 転換をすることはよくあります。大きなスペースで方 向転換できる場合には前進で入り前進で出ることも可 能ですが、大半の場合は、入るときか出るときにバッ クを伴います。そのようなときあわててバックをする と、路側帯や歩道を通行する自転車や歩行者と事故に なる危険があります。

方向転換でバックするときも、ひと呼吸おく、歩く 速度でバックする、後方(後方の左右も含めて)の安全 確認をするといった基本を忘れないようにしましょう。



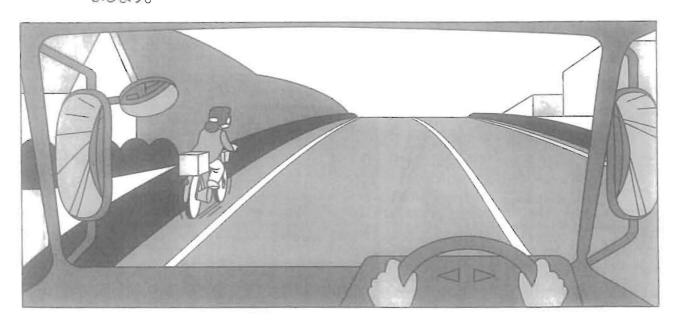
危険予知訓練(KYT)シート:交通事故防止編

あなたならどうしますか?

(第65回) 「上り坂頂上付近の走行」

状況

あなたは上り坂の頂上付近を走行しています。左前方には自転車が走行しています。この場面にはどのような危険がありますか。また、 危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



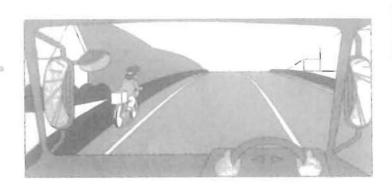
◆どのような危険がありますか?

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか?

危険予知訓練(KYT)シートの解説

▶交通事故防止編

あなたは上り坂の頂上付近を走行しています。 左前方には自転車が走行しています。 この場面にはどのような危険があります か。また、危険を避けるためにはどのよう な運転をすればよいでしょうか。考えてみ ましょう。



どのような危険がありますか?

- ①前方左側を走行している自転車がふらついたり、 坂を上りきれずに停止しようとする時にバランス を崩すと、自転車を追い越した際に衝突する危険 があります(図1)。
- ②目転車を追い越す際にセンターラインをはみ出してしまうと、対向車が現れた場合には正面衝突する危険があります(図2)。
- ③上り坂の向こう側に駐車車両があると、発見が遅れて追突する危険があります(図3)。

どのような運転をすれば危険を避けることができますか?

- ①上り坂の頂上付近は徐行が、義務付けられており、追越しも禁止されています。ただし、自転車などの軽車両の追越しは禁止されていませんから、徐行して追い越すことは違法ではありません。しかし、自転車にとって上り坂走行はきついため、途中でふらついたり、上りきれずに停止して自転車から降りようとする際にバランスを崩すことがあります。また、上り坂の頂上付近は坂の向こう側の交通状況も確認できません。したがって、このような場面での追越しは危険が大きいため、できるだけ控えるようにしましょう。
- ②上り坂の頂上付近は、その先が死角になるため対向車の有無などが確認できません。したがって、不用意にセンターラインをはみ出してしまうと、対向車がいる場合には正面衝突の危険がありますから、センターラインをはみ出さないように走行する必要があります。
- 1)上り坂の向こう側に駐車車両がある可能性もありますから、徐行せずに一気に上り坂を越えていこうとすると、 駐車車両を発見しても停止できずに追突する危険があります。特に、上り坂の向こう側は下り坂になっているケースが多く、その場合は加速もつきますから、ますます停止できないという状態になります。したがって、必ず徐行して進行し、上り坂の先の状況をしっかり確認する必要があります。

